



発行所  
長野市大字栗田2142番地  
長野県農業卸商業  
協同組合  
TEL. (026) 228-5730  
FAX. (026) 228-5818  
定価 1部50円(税込)

随筆

果樹殺虫剤テッパンと企業メッセージ

石原バイオサイエンス株式会社  
東京支店 小林 祐太



平素より弊社の製品を、愛用いただき誠にありがとうございます。

この度、信州の農業への紙面をお借りし、果樹殺虫剤殺虫剤のテッパン液剤を、弊社からのメッセージを、紹介させていただきます。

引続きのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

【テッパン液剤】

2018年5月に上市して以降、果樹及び茶の害虫防除ローテーションの1剤として県内外を問わず、広くご利用いただいております。

本剤はIRACの作用機構分類グループ28ジスチン系に分類される殺虫剤で、チョウ目害虫への防除を軸に、適用作物によっては、アザミウマ目、甲虫目、ハエ目、本年度全国的にも多発生となっております。

カメムシ目を含む広範囲の害虫に登録を有しております。

近年では特定外来生物に指定されているクビアカツヤカミキリにも、小粒核果類・もも・おとこづめで登録を取得しております。

「1回の散布で複数の重要害虫同時防除」を可能とする薬剤です。

2022年にはぶどうのハ

マキムシ類にも登録が拡大。2023年8月には、かきのハスモンヨトウにも登録を拡大いたしました。現在登録のある作物についても、更なる適用害虫の拡充が期待できるというところも本剤の魅力なのではと考えております。

製剤は、液剤タイプで果実等の汚れが少ないことも大きな特徴となります。

ご紹介させていただきましたテッパン液剤を中心に皆様のご協力をいただき、本年度も多くの薬剤の試験に取り組んでおります。

野菜場面で定番のウララDF、ランマンFL、フロンサイドSC、果樹場面で定番のドーシヤスFL、ニルスターSC、新規剤のケンジャフロアブルなどがその代表例でございます。

これからもご当地の皆様を選んで頂ける薬剤となれるよう、普及活動に邁進してまいります。

◆豊かな食生活を支えるために。To support a rich life. 【プロフィール】

1997年 大阪府生まれ  
2020年 石原バイオサイエンス(株)入社  
2022年 札幌支店、東京支店

担当：長野県・山梨県・新潟県  
昨年7月より長野県を担当しております。

積の縮小や農業就労者の高齢化とこれまでに農業業界が厳しい環境となる一方で、世界規模では人口は確実に増加し、更に深刻な食糧不足が予測されています。

そのため、これからも、石原バイオサイエンス(株)は当社の製品が農業を通じて食糧増産のお役に立つのと同時に、消費者の皆様にとってより安全性が高く、より環境負荷の少

害虫のはなし

ナシヒメシンクイ

長野県におけるナシの主要害虫である。

【形態】ナシヒメシンクイはチョウ目ハマキガ科に属する小型の蛾で、成虫は体長5〜7mm、開張12〜14mmである。ふ化直後の幼虫は乳白色であるが、成熟するにつれて赤みを帯び、老熟幼虫は体長約10mmに達する。

【被害】老熟幼虫が樹上の樹皮の隙間で越冬しており、春先に蛹となり、ナシの開花前には羽化する。第1世代成虫はウメやモモなどに産卵、化幼虫は新梢へ食入し、芯折れを生じる。ナシ果実への被害は第2世代以降が中心で、幼虫が果実に食入する。果実の成熟期が近づくと被害が増える傾向がある。長野県では、1年間に3〜4世代が発生するとされてきたが、南信地域では近年5世代目の発生が確認されており、ナシの中晩生種での被害が目立つ。

【防除】本種は、ナシの他にウメ・モモなどにも発生する。このため、ナシ園の防除だけでは被害を防ぎにくい。

7月上旬には第2世代幼虫による加害が見られるようになる。収穫期のナシでの被害を減らすためには、この第2世代の防除が重要であり、梅雨時期頃までは2週間間隔で防除する。続く第3世代幼虫

こ害虫のキノコバエ類など。このハエ達の最新の分類体系が知りたくて購入して見た。400種程度をカラー写真で紹介した入門書であり、どのページをめくっても地味なハエかきなのだが、非常にわかりやすい構成と解説で、よい買い物をしたと満足している。

肝心のハモグリバエ類は僅か見開き2ページで、やっぱりマイナーなんだと実感。

は本格的にナシの果実を加害し、発生期間も長い。7月下旬以降は気温が高まり、卵期間が短くなるため、より重点的な防除が必要となる。殺虫剤の散布の他に、交信かく乱剤(コンフェューザーN等)が有効であるため、地域全体での取組を検討する。なお、近年は9月以降も気温が高く、成虫の発生時期や年間の発生回数の変化などにより、中晩生種で被害が目立つことが多い。

また、7〜8月に降水量が多く、モモの新梢伸長が旺盛になると、モモ園でナシヒメシンクイの発生が増えることがある。ナシの早生種の収穫開始後もフェロモントラップにより誘殺消長を確認し、防除の打ち切り時期に注意する必要がある。本種による被害は有袋でも発生するため、晩生の「南水」でも注意が必要である。

【カイガラムシ類】

【形態】カメムシ目に属し、吸汁性の口器をもつが、主幹のような厚い樹皮を貫通して吸汁する能力はない。カイガラムシ類は体がロウ状物質やカイガラに覆われている。雌雄で形が異なり、雄は雌と比較して体が小さく、翅を有している。飛翔することができる場合が多い。

【被害】カキの果実のヘタ下などに潜り込み吸汁加害する。被害は主にすす病(排泄物にカビが発生し、ヘタや果実が

黒く汚れる)や果実の着色異常である。

【防除】防除適期は、幼虫がロウ状物質等に覆われていないふ化直後である。ふ化時期は種によって異なるため、発生種を確認し、種ごとのふ化時期に防除を行う必要がある。平成27年度普及に移す農業技術「果樹を加害する主要カイガラムシ類幼虫の発生時期」を参照されたい。

クワコナカイガラムシは、リンゴ、ナシ、モモ、ブドウなどで問題となる。本種は粗皮下などに産み付けられた、卵のう内の卵で越冬している。クワコナカイガラムシ幼虫のふ化時期は5月中下旬頃と7月上中旬頃、9月中旬頃の3回である。有袋栽培では、袋内に侵入して収穫期まで気付かないことが多いため、袋かけ前までにしっかりと防除を行い、袋の口をしっかりと閉じる。

フジコナカイガラムシは、南信地域特産の市田柿の主要な害虫である。主として幼虫が粗皮の隙間などで越冬する。年間の発生回数は3回と考えられ、幼虫のふ化時期は6月中下旬頃、8月中旬頃、9月下旬以降の3回である。若齢幼虫期が防除の適期であり、ふ化予測日付近に1回目の防除を行い、2回目の防除はふ化完了を待ち4週間程度間隔を開けて行うと効果が高い。

(南信農業試験場 福田勉)

とはいえ、参考とするためによく論文を読んでみた。キツネノボタンハモグリバエやスイカズラハモグリバエが紹介されているし、農業害虫としてナモグリバエもちゃんと載っている。少しいい。キノコバエ類は3科で5ページ、ナミキノコバエ科の解明度は30%とのこと、これから研究が進むことを期待したい。このほか、仕事の邪魔をされることみなさま、いかがでしょうか。(濃眉蜂)

葉面散布用カルシウム肥料

# ストピットII

STOP IT THE SECOND

果実のカルシウム欠乏症の予防、品質向上に

炭酸カルシウム水和剤 農業登録No.9385

# クレファン

CLEF-NON

リンゴ、カキ、ナシの果面保護に

資料請求先

## 白石カルシウム株式会社

食品アグリ資材G/〒104-0031 東京都中央区京橋1-11-1 TEL. 03-3538-2354

モベントフロアブル

優れた浸透移行性で やっかいな害虫も見逃さない!

アザミウマ類 アブラムシ類  
カイガラムシ類 ニセナシバダニ

優れた浸透移行性を有し、散布後、新葉にも有効成分が行きわたることで長い残効を示します。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く前には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

しぶといハダニはサラバでござる!

# ダニサラバ

フロアブル

虫にも病気にも効く新タイプの殺虫剤!

# ハチハチ

フロアブル

カイガラムシ類・チョウ目害虫防除に!

# オリオン

水和剤 40

パワフルフルーツ殺菌剤!

# オーシャイン

水和剤 フロアブル

新規系統のうどんこ病防除剤

# ショウチナスター

フロアブル

OAT アグリオ株式会社

当面の技術

7月・8月の病害虫対策

りんご・ぶどう・もも

果樹試験場

技師 島袋稚子(病害)
研究員 養島萌子(虫害)

りんごの病害

リンゴ褐斑病

近年、地域によって多発し、早期落葉するため果実品質や樹体への影響が懸念される。本年、6月5日時点での殺菌剤無散布樹での初発は確認されていない(昨年は5月22日)。6月下旬〜7月上旬は本病の二次伝染初期にあたり、この時期にベンゾイミダゾール系薬剤などの卓効を示す薬剤を散布することで効果的に防除できる。なお、ベンゾイミダゾール系薬剤に対しては果下で耐性菌が確認されている。本剤を散布しているのにも関わらず防除効果が認められない場合は、オンラインフロアブル、ユニックス顆粒水和剤47を散布する。散布むらは発生を多くする要因となるので、薬剤の到達性を向上させるため、枝吊り、徒長枝のせん定を行うとともに、SSSの走行経路や散布量についても見直す。

リンゴ炭疽病

高温・多雨の年には被害が多くなりやすい。果実への感染は6月〜9月頃まで起こる。円形で褐色のやや陥没した病斑を形成し、鮮肉色の分生子塊を生ずる。梅雨時期にあたる6月中旬から7月下旬は感染に好適な条件になりやすく、果実の感受性が高くなることから、この時期は間隔があきすぎないよう防除に努める。果実の病斑上に形成された分生子は二次伝染源となるため、発見次第、土中に埋める。果内ではQOI剤の耐性菌が確認されているため、注意が必要である。

リンゴ輪紋病

増加し始める第2世代成虫の発生始期(果樹試の平年で7月上旬頃)の防除が特に重要となる。その後も発生が多いようであれば、第3世代成虫の発生始期(8月上旬)に防除を行う。発生始期が平年と大きく異なることが予想されるので、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

出現しやすいため、耐性菌の出現リスクが高い薬剤は連用せず異なる作用機種の薬剤をローテーション使用する。なお、長野県内ではQOI剤耐性菌が蔓延しており、QOI剤はべと病防除に使用しない。

ぶどうの虫害

チャノキイロアザミウマ

6月頃から10月上旬頃まで成虫の発生がみられる。落花直後と発生が増加する7月初旬頃は重要な防除時期である。防除から袋掛けまで期間があかないよう、発生が多い場合は袋掛け後の防除も必ず実施する。

カメムシ類

南信地域においてカメムシ類が多発する恐れがあるとして、果樹カメムシ類の地区注情報が発出されている。多発年には7月以降も成虫が恒常的に果樹園へ飛来し、果実を加害するため、注意が必要である。飛来が多くみられる場合は、薬剤による防除を実施する。

クワコナカイガラムシ

クワコナカイガラムシ第1世代(孵化幼虫)が7月上旬頃から発生し、第2世代(孵化幼虫)が8月中旬頃から発生する。寄生が多い場合は、7月下旬に薬剤を散布する。

クビアカスカンバ

6〜8月に成虫が羽化する。成虫発生始期から落花10日後までと袋掛け後の7月下旬から8月上旬の2回、枝幹部に薬剤が十分にかかると、丁寧に薬剤を散布する。なお、薬剤によっては果粒の小豆大期以降は、汚れや果粉溶脱が生じるため、注意する。また、幼虫の虫糞排出を確認したら、ロビンフッドを処理するから、幼虫を捕殺する。

ももの虫害

シンクイムシ類

本県ではモモンシクイガによる被害が主である。近年、地域によってナシヒメシンクイの被害(新梢の芯折れ症状)もみられる。シンクイムシ類の防除は食入防止を目的に行う。防除時期は成虫の発生ピーク前後である。ナシヒメシンクイの防除時期はモモンシクイガよりも早いので、発生種に注意して防除を行う。

モモハモグリガ

第2世代、第3世代成虫の発生時期にあたる。第2世代以降、密度の急激な増加がみられることがある。幼虫が葉肉内へ食入してしまつと防除効果が低下するため、各世代の成虫発生始期(果樹試の平年で第2世代は7月上旬、第3世代は7月末から8月初め)に防除を行う。その年の気温によって発生時期が平年と大きく異なる場合があるため、各世代の発生始期について、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

クワコナカイガラムシ

有袋栽培で問題となる。7月下旬頃に防除を行う。

カメムシ類

りんごと同様に多発の恐れがあり、注意が必要である。飛来が多くみられる場合は、薬剤による防除を実施する。

リンゴの病害

リンゴ褐斑病

近年、地域によって多発し、早期落葉するため果実品質や樹体への影響が懸念される。本年、6月5日時点での殺菌剤無散布樹での初発は確認されていない(昨年は5月22日)。6月下旬〜7月上旬は本病の二次伝染初期にあたり、この時期にベンゾイミダゾール系薬剤などの卓効を示す薬剤を散布することで効果的に防除できる。なお、ベンゾイミダゾール系薬剤に対しては果下で耐性菌が確認されている。本剤を散布しているのにも関わらず防除効果が認められない場合は、オンラインフロアブル、ユニックス顆粒水和剤47を散布する。散布むらは発生を多くする要因となるので、薬剤の到達性を向上させるため、枝吊り、徒長枝のせん定を行うとともに、SSSの走行経路や散布量についても見直す。

リンゴ炭疽病

高温・多雨の年には被害が多くなりやすい。果実への感染は6月〜9月頃まで起こる。円形で褐色のやや陥没した病斑を形成し、鮮肉色の分生子塊を生ずる。梅雨時期にあたる6月中旬から7月下旬は感染に好適な条件になりやすく、果実の感受性が高くなることから、この時期は間隔があきすぎないよう防除に努める。果実の病斑上に形成された分生子は二次伝染源となるため、発見次第、土中に埋める。果内ではQOI剤の耐性菌が確認されているため、注意が必要である。

リンゴ輪紋病

増加し始める第2世代成虫の発生始期(果樹試の平年で7月上旬頃)の防除が特に重要となる。その後も発生が多いようであれば、第3世代成虫の発生始期(8月上旬)に防除を行う。発生始期が平年と大きく異なることが予想されるので、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

植防短信

農業危害防止運動が始まり1か月が経過したところで、皆様には、農薬の適正な使用や販売にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。この運動に合わせ、(一社)長野県植物防疫協会及び全国農業協同組合連合会長野県本部との共催により本年も農薬適正使用研修会を6月4日にオンライン配信を中心として開催しました。当日は、生産者や防除業者、ゴルフ場関係者などをはじめとする農業関係者に携わる大勢の方々にご参加いただき、農薬適正使用について学んでいただきました。さて、今回は、先述の研修会資料の中でも取り上げ、長野県病害虫・雑草防除基準にも掲載されている「ミツバチに対する農薬使用上の危害防止対策について」をご紹介します。

ももの虫害

シンクイムシ類

本県ではモモンシクイガによる被害が主である。近年、地域によってナシヒメシンクイの被害(新梢の芯折れ症状)もみられる。シンクイムシ類の防除は食入防止を目的に行う。防除時期は成虫の発生ピーク前後である。ナシヒメシンクイの防除時期はモモンシクイガよりも早いので、発生種に注意して防除を行う。

モモハモグリガ

第2世代、第3世代成虫の発生時期にあたる。第2世代以降、密度の急激な増加がみられることがある。幼虫が葉肉内へ食入してしまつと防除効果が低下するため、各世代の成虫発生始期(果樹試の平年で第2世代は7月上旬、第3世代は7月末から8月初め)に防除を行う。その年の気温によって発生時期が平年と大きく異なる場合があるため、各世代の発生始期について、関係機関(防除所等)からの情報を参考に、適期防除に努める。

クワコナカイガラムシ

有袋栽培で問題となる。7月下旬頃に防除を行う。

カメムシ類

りんごと同様に多発の恐れがあり、注意が必要である。飛来が多くみられる場合は、薬剤による防除を実施する。

MBCの機能性展着剤
ドライバー
「散布した瞬間、安心感が違う！」
◎ぴたりと付着 ◎スツと濡れ広がる ◎汚れにくい
◎乾きが早い ◎殺菌剤との相性が良い

ハダニの卵~若虫に効果を発揮!
エコマイト
ダニ防除剤
兼商 ヨーバル
フロアブル
病害とナメクジ類の同時防除に!
兼商 プロシールド
病害防除剤
アグロ カネショウ株式会社 関東支店 中部営業所
TEL. 026-224-1265

トピックス
(農政部農業技術課)
また、地形により風向き、風速は複雑に変化するものも念頭においてください。
(一社)長野県植物防疫協会
(一社)日本植物防疫協会の早川泰弘理事長(長野市出身)により「植物防疫をめぐる最近の動き」と題して記念講演がありました。
(信州の農業事務局)

当面の技術

7月・8月の病害虫対策  
野菜・花き

野菜花き試験場

研究員 石山佳幸(病害)  
研究員 山岸 希(虫害)

【病害】  
○アブラナ科野菜の黒斑細菌

黒斑細菌病はシユードモナス属の細菌によって引き起こされる。本病は罹病株が伝染源となり、降雨によって周囲の株に感染、発病が拡大していく。病気が進展し始めるとなかなか防除しきれないので、予防防除に努める必要がある。防除対策として、罹病性の低い品種の利用や、罹病した苗を本圃に持ち込まない等、生育初期からの防除が重要となる。

○ブロッコリー黒すす病

本病はアルタナリア属の糸状菌によって引き起こされる。本病は育苗中の苗から収穫物の花蕾まで生育ステージ全般で発生が認められている。外葉の病徴は、初め小さな黒色点状の病斑を形成し、進行すると周囲が黄色の黒褐色の輪紋斑を形成する。外葉上に病斑を形成している場合、花蕾にも症状が及ぶリスクが高まる。花蕾部分の症状として、はじめ花芽に黒色の小斑点を生じた後、病斑が拡大して黒褐色に腐敗し、花蕾の一部が陥没する。ひどい場合は花蕾全体に症状が及ぶ。防除対策として、罹病株の病斑部から病原菌が周囲に飛散するため、早期に圃場外に持ち出す。ブロッコリーを春から秋と連作する場合は、春作で本病が発生すると残渣中などに病原菌が残存するため、春作から防除を徹底する。また外葉で病斑を形成していると花蕾に発病するリスクが高まるため、薬剤防除のタイミングとしては、出蕾前の外葉形成

期から予防散布する。  
○アスパラガスの茎枯病

アスパラガスの生産上、大きな障害となっているのがこの茎枯病である。降雨によって分生子が飛散し、感染が広がっていくため、降雨が発生を助長している。防除対策は、耕種の防除と薬剤防除を体系的に実施することが重要である。本病原菌は比較的高温を好み、降雨によって伝搬するため、雨よけ栽培が最も効果的な防除対策である。本病は難防除病害であり、防除するためには通風を良くするため適正な立茎数を維持し、残茎処分や雨よけ栽培等の体系的な防除を行い、本病の発生に留意していただきたい。

○ウィルスによる病害

果菜類や花き類では、例年この時期ウィルス病害の発生が多くみられる。トマトやパプリカ(カラーピーマン)では、アブラムシ類によって媒介されるCMVが多発傾向にある。加えてアザミウマによって媒介されるトスポウイルス(TSWV)等による被害も確認されている。防除対策は、栽培施設への感染植物の持ち込み阻止や、媒介虫の徹底防除、罹病株の早期抜き取り、施設周辺雑草の除去等が重要である。

【虫害】

7、8月は、高温条件により害虫の生育速度が速まる。主要害虫の特徴を、再度確認し、効果的な防除に努めたい。

○ナミハダニ

問題となるのは、主に施設である。雌成虫の体長は0.6mm程度であり、黄緑型と赤色型がある。25℃では約10

日で1世代を繰り返す。1雌成虫あたりの生涯産卵数は100〜150卵といわれる。ナミハダニは、普段から糸を出して移動し、この糸が網状になることで葉液が虫体に到達しにくくなる。そのため、薬剤防除の際は、糸が網状になる前の、発生初期に防除することが肝要である。はじめは局所的に増加するため、作業時に葉裏を見て発生状況を確認する。ナミハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいため、異なる系統の薬剤によるローテーション防除を行う。果菜類では葉が繁茂し、害虫を見落としやすい。また、薬剤がかかりづらく、下葉を除去するなどして葉裏に薬剤がかかるように整理し、処理残渣は直接肥料袋などで受け処分することで、圃場や施設内にハダニが残らないようにする。

○アザミウマ類

夏秋イチゴではミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマが発生する。これらは、主に花や幼果に棲息するため、発生は花に息を吹きかける等で確認する。成虫の寿命が長く、夏季は2週間程度で世代を更新する。黄色〜橙色の幼虫の発生を確認した際は、増殖が始まっているため、速やかに防除を行う。また、梅雨明け後の高温により施設内の密度が急激に増加することがあるので、発生状況を注意深く確認する。

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初穂基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初穂基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初穂基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

害虫のはなし  
イネカメムシ

イネカメムシは斑点米カメムシ類の一種で、近年、関東以西で被害が問題となっている。本種は1950年代までは関東以西に広く分布し、斑点米カメムシ類の主要種であったが、1960年代以降は発生が減少し、1970年代以降には水田での生息はほぼ確認されていなかった。しかし、近年、関東以西の本州各地や四国、九州で発生量が増加し、斑点米被害が問題となっている。これまでのところ長野県においては発生予察調査等で本種は確認されていないが、2023年には近隣の岐阜県、愛知県から発生予察注

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初穂基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

【被害】

成虫・幼虫ともに、水稲の初穂基部を主とする特異的な加害の仕方をして、斑点米を生じさせる。また、本種以外の斑点米カメムシ類の多くは出

【発生生態】

成虫の体長は12〜13mmで、斑点米カメムシ類の中では大型種に分類される(図1)。古くからイネ害虫とされているにもかかわらず、生態や行動についての報告は限られており、発生生態に不明な点が多い。年1化性で、成虫越冬し、越冬成虫は6月下旬頃から発生するが、水田に移動するまでの生態は不明である。7月中旬〜下旬の早生品種の出穂に伴って水田に飛来、交尾・産卵し、その後、約1カ月に次の

トコーンでは、茎葉や絹糸、雌穂の先端部が被害を受けやすい。食入後の防除では効果が劣るため、絹糸抽出期の防除を徹底し、食入を受けにくいよう注意する。特に8月以降に収穫する作型では、近年はアワノメイガと併発することが多い。アワノメイガ防除の際はオオタバコガも併せて防除できる薬剤の選択が望ましい。

【防除】

耕種的な防除方法は確立されていない。本種はイネ科雑草に寄生しないため、ほ場周辺等の草刈りでは被害が防止できない。このため、本種の発生地域では薬剤防除が必須となる。

【防除】

薬剤散布は、出穂期〜穂揃期と乳熟期(出穂10〜15日後)に行う。特に不稔を防止するための出穂期の防除が重要となる。茨城県農業総合センター農業研究所の研究では、スミチオン乳剤、キラップフロアブル、トレボン乳剤、スタークル液剤10の殺虫効果が高いことが確認されている。

トピックス

令和6年産米の作付意向  
農林水産省の5月30日の公表によると、5年度実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県です。1月末時点と比べて、増加傾向が5県から11県へ増加しました。



図1 イネカメムシ成虫 (茨城県農業総合センター農業研究所提供)

多彩なラインナップで長野県の作物を守ります！  
ツインパリア 水和剤  
パレード15フロアブル  
アードントフロアブル  
ダニコングフロアブル  
サイハロン  
オキシラン 水和剤  
トランスフォームフロアブル  
デリゲートWDG  
ゾーベックエニベル  
サイハロン  
オキシラン  
NICHINO 日本農薬株式会社

あると、安心。アフーム 農家の“常備薬”  
適用作物60種類以上、幅広く使えます！  
アフーム 乳剤  
アフームエクセラ 顆粒水和剤  
シンジェンタ ジャパン株式会社 syngenta

BASF We create chemistry  
果樹、野菜の味方！  
BASFの4製品が守ります  
高濃度少量散布が 除草剤  
できる！果樹園の下草防除に  
黒星病や褐斑病防除に 殺菌剤  
新規の有効成分配合  
ベランティーフロアブル  
2つの有効成分で 殺菌剤  
野菜の幅広い病害をブロック！  
シグナムWDG  
BASFジャパン株式会社

話題の情報

イネ稲こうじ病に対する土壌改良資材とモンガリット粒剤による被害軽減技術

農業試験場環境部 研究員 中島宏和

【はじめに】

イネ稲こうじ病は主に土壌中の厚壁胞子が伝染源とな...

【土壌改良資材とモンガリット粒剤を組み合わせた場合の稲こうじ病に対する被害軽減効果】

土壌改良資材として転炉石...

話題の巻

水田転作品目におけるドローン活用推進支援

■背景

佐久地域では、近年スマート農業機械の導入が進み、特にJAや企業が所有するドローンによる水田への農薬散布...

■そこで一昨年、水田転作品目として導入したかぼちゃの...

アブラムシ類に対するドローン防除の効果を県内で初めて確認した。

を組み合わせた処理の稲こうじ病に対する被害軽減効果を...

目的効果を検証した。無処理区の発生量は...

2020年は2019年とほぼ同等の効果であったが...

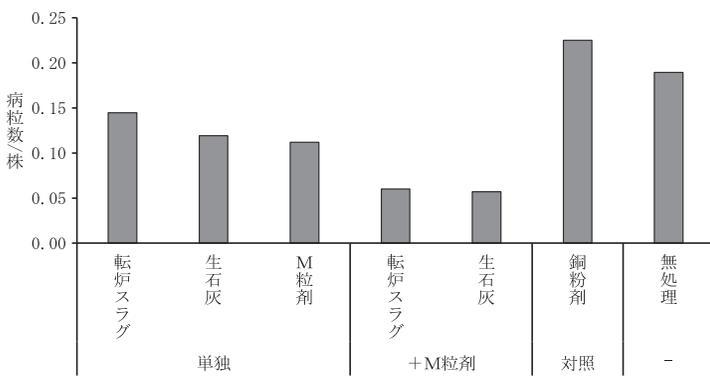


図1 土壌改良資材とモンガリット粒剤の稲こうじ病に対する被害軽減効果 (2019年)

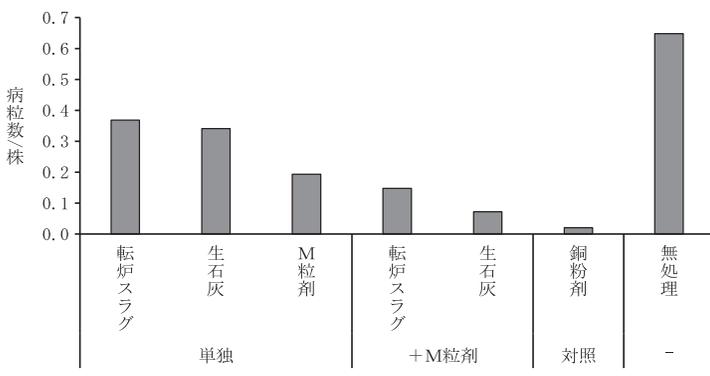


図2 土壌改良資材とモンガリット粒剤の稲こうじ病に対する被害軽減効果 (2021年)

昨年、かぼちゃとごんご病に対するドローン防除の効果確認を行うとともに、ドローンの導入および適正利用の推進を目的とした啓発活動を行った。

■水田転作品目におけるドローン活用の実証

昨年7月4日、後述する実演会の開催に併せてかぼちゃとごんご病を対象としたドローンと動噴の防除効果を比較する試験を実施した。

■ドローンの導入および適正利用の推進

昨年7月4日に農業士協会北佐久支部主催にてドローン防除実演会を開催した。

分業液がからなかったためと考えられた。

知ることができた。

■今後の課題と対応

2年間の実証から、かぼちゃに対するドローン防除はアブラムシ類に対しては効果が得られる反面、ごんご病に対してはやや効果が劣ること...

【質問】市田柿に条紋が発生してしまいます。原因と対策を教えてください。



【回答】

カキに発生する条紋は果実に発生する生理障害の1つです。果頂部付近の果実表面に同心円状の細かい亀裂が発生する障害で、発生果実は果皮が裂皮し、傷にそって筋状の黒変を生じます。

部の品種では発生が多く、年によっては大発生します。条紋の発生要因については詳しい仕組みは明らかになっていませんが、「市田柿」での条紋の発生については、過去の調査(市田柿ブランド推進協議会実施)から、成熟期後半の降雨が影響しているとの推測されています。

原因が明らかでないため、有効な対策も確立されていませんが、「市田柿」と同様、条紋が発生しやすい「太秋」では、条紋が発生し始める9月上旬までに袋掛けを行うことで、発生が抑制されることが報告されています。

【前・南信農業試験場 果樹試験場 島袋種子】

ダコニール 1000 病害の予防・同時防除。70種類以上の作物、およそ180種類の病害に登録。Daconil Club logo.

ムッシュポルター DF 銅水和剤。手軽に運べてらくらく防除! ぶどう、もも、ネクタリン、おうとう、小粒核果類 (あんず、うめ、ずもも).